
感動原理機構

柊鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

感動原理機構

【Nコード】

N0202G

【作者名】

柊鏡

【あらすじ】

生物の脳は、オーダーメイドである。

生物の脳は、オーダーメイドである。

外界からの入力によって自立的にパーセプトロンが反応し、シナプスがニューロンシステムを構築していく。

そして、入力に対し一定の傾向を持つようになる。

それは閾値しきいちと呼ばれる。

さて、今日も客がやってきた。仕事場へ行こう。

「先生。初めてなんですが」と、女性は言った。

「なあと、大丈夫ですって」

当然、商売であるから、私は危ないとは口が裂けても言えないのである。

「でも……。心の中が見透かされるとか」

「馬鹿いつちゃあいけません。心と脳は別ですよ」

嘘も方便である。

何、本当を言っでは、私が飢え死ぬ。

「そうなんですか？」

「MRIみたいなもんですよ」

「ではお願いします」

私は客を本当にMRIそっくりの装置の乗せた。

MRIは脳の物理的な断面図を調べるものだが、私が使う機材はちよつと違う。

客にあるデータを見せ、それに対し脳のニューロンシステムが如何様かように反応するかを見るのである。

私は客に、まず《ミレーの落穂拾い》を見せた。

ディスプレイに映る反応を見る。

次に、ダリに《ビキニの三つのスフィンクス》を見せた。

次、レンブラントの《夜警》。

今度は音楽だ。

ハウスミュージック、ヘビーロック、ジャズに演歌。それぞれの代名詞とされる楽曲を聞かせる。

そうして幾つかの絵や音楽、臭いなどを客に見せたり、聞かせたり、嗅がせたりした。

脳の反応をソフトウェアで統合し、結果を出す。

結果が出るまでの短い間に、客を検査室から診断室に戻す。

そして、ここで初めて客のオファーを聞くことになる。

「あの……お薦めの泣ける映画は」

「はいはい。泣ける映画ね……」

ソフトウェアに映画、泣けると打ち込む。

そうすると幾つもの映画がリストアップされた。

リストをファイルに保存して、印刷する。

その紙束を客に渡した。

「ありがとうございます」

「なあに、仕事だからね。絶対泣けますよ」

「はい」

領き、料金を払い客は帰った。

ひところ、泣ける映画とやらが流行った。

絶対泣けるは広告主の芸のないキャッチコピーだった。

しかし、近年そんなキャッチコピーをつける広告はない。

なぜか。それは詐欺罪になるからだ。

だが、私は言える。彼女はリストの映画で絶対泣けると。

何故って？ 私は彼女の心を検査したからだ。

人間の感情も、オジギソウのオジキと大差ない、そういうことである。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0202g/>

感動原理機構

2010年12月25日02時09分発行